

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：32627

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02260

研究課題名(和文)戦後派作家の長篇小説に関する総合的研究

研究課題名(英文)A Comprehensive Analysis of the "Long" Novels by "Postwar Novelists" in Japan.

研究代表者

井上 隆史 (INOUE, Takashi)

白百合女子大学・文学部・教授

研究者番号：10251381

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、第一に三島由紀夫、野間宏、武田泰淳、中村真一郎、大岡昇平ら、いわゆる戦後派作家による長篇小説の草稿を精査し、彼らの創作過程を比較検討した。その際、フランス生成論の成果を踏まえ、より望ましい草稿研究の方法論を追求した。第二に上記の作家たちによる小説の差異と共通性を日本文学史の大きな文脈の中で検討するとともに、それが近現代における世界文学の課題に応えるものでもあることを明らかにした。第三にそれは同時に近現代における哲学的課題に対応するものでもあることを、歴史、経済学、特に精神分析などの知見も生かして示した。

研究成果の概要(英文)：I began this research project by firstly investigating drafts and manuscripts of the works and comparing the creative processes of the so-called "postwar novelists" in Japan, such as Mishima Yukio, Noma Hiroshi, Takeda Taijyun, Nakamura Shin'ichiro and Oka Shohei. I applied a desirous methodology regarding the research of these manuscripts, whereby I improved an element of the French "critique genetique." Secondly, I highlighted the differences and similarities of the novels by the aforementioned writers on two main levels - by reviewing them within the whole history of Japanese literature AND depicting how they compare to world literature in modern times as well. Furthermore, I concluded by also illustrating in modern times how they correspond in philosophical terms in reference to various fields of study, including (amongst others) history and economics, and especially psychoanalysis.

研究分野：日本近代文学

キーワード：三島由紀夫 野間宏 武田泰淳 戦後 草稿 世界文学 哲学 精神分析

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究代表者は、既に二回の基盤(C)「三島由紀夫の手稿に関する総合的研究」(2008~2010)、「野間宏『青年の環』の創作過程と『全体小説』論の研究」(2012~2014)を実施した。本研究はこれを発展させ、いわゆる戦後派作家の草稿類の調査分析を踏まえた上で、その長篇小説を日本文学、世界文学の大きな視野の中で総体的に捉え、さらにそれが近現代における哲学的課題に対応するものであることを、歴史、経済学、特に精神分析などの知見も生かして示そうとするものである。

(2) 草稿の研究、個々の作家、作品に限定せず、長篇小説を広く総体的に捉える研究、哲学的文脈を視野に入れた研究は、いずれも我が国では緒に就いたばかりである。これは戦後派作家研究に限らず、日本文学研究全般に指摘できる問題である。今後、学際的、国際的な環境の中で日本近代文学の考察を深めるためには、上述の研究を進めることこそ急務であると考え、今回の基盤(C)を企画した。

### 2. 研究の目的

(1) 上述のように、戦後派作家の草稿類の調査分析、日本文学、世界文学の大きな視野の中での戦後派作家の長篇小説の総体的把握、哲学的文脈を視野に入れた評価、が主要目的である。

(2) に関しては、前二回の基盤(C)で実施した三島、野間の草稿研究をさらに進展させるとともに、武田泰淳、中村真一郎、大岡昇平らの草稿類を調査し、これらの作家の作品成立過程を相互比較するための適切な方法論の確立を目指す。に関してはこれらの長篇小説を、日本文学、世界文学全体の中に位置づけるとともに、それぞれの作品ごとの特質、差異と共通性を明確にする。に関しては、歴史、経済学の文脈はもちろん、精神分析の発想を導入して、戦後派作家の長篇小説が近現代における哲学的課題に対応するものであることを示す。

### 3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、以下の方法を採用した。

目的 に関しては、三島、野間、武田、中村、大岡らの草稿類を所蔵する神奈川近代文学館、日本近代文学館などを定期的に訪問して資料を調査し、データベース作成作業を継続、発展させる。また、これら草稿類の調査結果を比較、分析するための適切な方法論を探るため、フランス生成論の理論書の翻訳、読解を進める。

目的 に関しては、戦後派作家の長篇小説を坪内逍遙、二葉亭四迷から大江健三郎、村上春樹らに至る日本近代文学史の中に位置付け直すとともに、日本文学、世界文学全体

に視野を拡大して考察を深める。そのために、日本近代文学以外を専門領域とする研究者と連携してシンポジウムや研究会を開催する。

目的 に関しては、関心を共有する、文学研究以外のジャンルの専門家とも連携して学際的なシンポジウムや研究会を開催する。

### 4. 研究成果

主たる研究成果は以下の点である。

目的 に関しては、前回の基盤(C)「野間宏『青年の環』の創作過程と『全体小説』論の研究」の成果として作成した『神奈川近代文学館蔵・野間宏「青年の環」草稿原稿資料総覧』(後述の「主な発表論文等」における図書)や、『近代文学草稿・原稿研究事典』(八木書店、2015)収録の拙稿(武田泰淳)を発展させて『戦後派作家長篇小説草稿原稿資料総覧』を試作し、膨大な資料の概略を一覧できるようにした。

その際、方法論的にはフランス生成論を代表する理論書である

・ Daniel Ferrer, *Logiques du brouillon: modèles pour une critique génétique*, Seuil (Collection « Poétique »), 2011.

・ Pierre Marc de Biasi & Anne Herschberg Pierrot(éd), *L'Œuvre comme processus* (dir. CNRS éditions), 2017.

などを参照し、草稿研究における過度の構造主義、テキスト論的偏向の修正を試みた。

その成果の一部は、『三島由紀夫「豊饒の海」VS 野間宏「青年の環」 戦後文学と全体小説』(図書)、Crisis and the Total Novel in Japan (学会発表)などにおいて公表した。

目的 に関しては、連携研究者である田尻芳樹、鈴木貞美らの協力を得て戦後派作家の作品を含む国内外の長篇小説をめぐる連続講義を企画し、その成果を『長篇小説の扉』(図書)にまとめたほか、ドナルド・キーン、高橋睦郎、宮本亜門らを招いた「国際三島由紀夫シンポジウム2015」(学会発表)ノobel文学賞候補と言われながら早くに亡くなった津島佑子を追悼する国際シンポジウム(マイケル・ボーダッシュ、川村湊らを招いた。学会発表)などを開催して、戦後派作家の長篇小説を、国内外の文学史の大きな文脈のなかに位置付け直すことを試みた。その結果、戦後派の長篇小説は、19世紀フランスにおいて本格的に始動し、ロシア、米国、ラテンアメリカ等で発展する「全体小説」(時代や社会の全体的ビジョンを読者に与える小説)の系譜に連なり、冷戦期の日本において、作家ごとに独自の発展を遂げたものであることが、はじめて明らかになった。しかしこのことは大江健三郎以降の日本文学において、適切に受け継がれていない。この研究成果は、『混沌と抗戦 三島由紀夫と

日本、そして世界』、『津島佑子の世界』(図書)などとしてまとめた。

「全体小説」という概念については、関心を共有するジャック・デュボア(リエージュ大学)、マーク・アンダーソン(ジョージア大学)らと連携し、The Total Novel Study Group を設立し、内外から8名の発表者を得て研究学会を開催したほか(学会発表)、内外から10名の発表者を得て UCLA で開催された American comparative literature association にも参加した(学会発表)。American comparative literature association では、当初予定していなかったエジプト文学、シリア文学などアラブ系の研究発表も加わり、より大きな射程の中で日本の戦後文学を再検討する視覚を得た。

目的 に関しては歴史、経済学や、特に精神分析の知見を踏まえ、戦後派作家による長篇小説が近現代における哲学的課題に対応するものであること、ただしそこには小説における言語(フランス語、英語、ロシア語、日本語……)の相違をめぐる深刻な問題があることを明らかにした。その成果の一部は日本におけるラカン研究の草分けである佐々木孝次との対談(雑誌論文)で示した。また関連して、連携研究者である原和之らの協力を得てラカン「サントーム」研究会を組織し、同書英訳者のアドリアン・プライスとも協力して考察を進めている。哲学に関しては、マルクス・ガブリエルと面識を得たので、今後連携して研究を深める予定もある。

以上の目的 に関する包括的な研究成果として、三島由紀夫の『豊饒の海』を主題としつつ射程を大きく広げた『「もう一つの日本」を求めて 三島由紀夫『豊饒の海』を読み直す』(図書)を著わした。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

井上隆史、研究動向・津島佑子、昭和文学研究、依頼原稿、NO.77、2018年、校正中

Takashi INOUE、The particularity and new possibilities of Mishima's dramas、EAST ASIAN THEATRES: TRADITIONS - INSPIRATIONS - EUROPEAN / POLISH CONTEXTS、依頼原稿(ポーランド) 2018、pp. 185-190.

井上隆史・佐々木孝次、佐々木孝次著『ラカン「リチュラテル論」』(せりか書房)をめぐって、図書新聞、依頼対談、2017/11/25

井上隆史、三島由紀夫の魅力は「無」にある、知日、依頼インタビュー(中国) NO.45、2017年、pp. 114-115.

井上隆史、メキシコの三島由紀夫シンポジウム、国文白百合、査読あり、NO.48、2017年、pp. 83-98.

井上隆史、メキシコ雑感 中村真一郎、三島シンポのことなど、中村真一郎手帖、依頼原稿、NO.11、2016年、pp. 68-71.

井上隆史、「国際三島由紀夫シンポジウム2015」を終えて、三島由紀夫研究、NO.16、2016年、pp. 69-72.

井上隆史、目前に迫る真の破局 アウシュヴィッツと三島由紀夫、毎日新聞(夕) 依頼原稿、2016/2/4

Takashi Inoue、Yukio Mishima w roku 2015、elewator、依頼原稿(ポーランド) NO.14、2015年、pp.6-11.

マーク・D・アンダーソン、虚構世界と実在世界との不調和な関係 マリオ・バルガス・リョサと全体小説の美学、白百合女子大学研究紀要、査読あり、NO.51、2015年、pp.71-95。(井上隆史=解説、翻訳)

井上隆史、三島由紀夫とダンヌンツィオ、イタリア地中海研究叢書、依頼原稿、NO.1、2015年、pp.322-333.

[学会発表](計10件)

Takashi Inoue、Crisis and the Total Novel in Japan、American comparative literature association、2018年

Takashi Inoue、What is the total novel?、The Total Novel Study Group、2017年

西岡亜紀ほか、『1946・文学的考察』における「世界文学」のプログラム、日本近代文学会、2017年(井上隆史=ディスカッサント)

国際追悼シンポジウム「津島佑子の世界」、2016年(井上隆史=コーディネーター、司会)

Takashi Inoue、El pabellon dorado、Yukio Mishima a 90 anos de su natalicio、招待講演(メキシコ) 2016年

Takashi Inoue、Literatura e Historia、 analisis de "El mar de la fertilidad"、Yukio Mishima a 90 anos de su natalicio、招待講演(メキシコ) 2016年

Takashi Inoue、Los huellas de Yukio Mishima en Mexico、Yukio Mishima a 90 anos de su natalicio、招待講演(メキシコ) 2016年

井上隆史、ラカン VS ミシマ - もし、二人が出会っていたら……、国際三島由紀夫シンポジウム 2015、2015年(井上隆史=同シンポジウム全体のコーディネーターも勤めた)

井上隆史、21世紀文学としての『豊饒の海』 - 全体小説と世界文学、国際三島由紀夫シンポジウム 2015、2015年

Takashi Inoue、The particularity and new possibilities of Mishima's dramas、East Asian Theatres、2015年

[図書](計8件)

井上隆史(編) 弘学社、『長篇小説の扉』、2018年、137ページ

井上隆史、現代書館、『「もう一つの日本」を求めて 三島由紀夫『豊饒の海』を読み直す』、2018年、237ページ

井上隆史(編) 水声社、『津島佑子の世界』、2017年、274ページ

井上隆史ほか(編) 水声社、『混沌と抗戦 三島由紀夫と日本、そして世界』、2016年、467ページ(井上隆史=共篇者として全編を編集して章ごとの「序」を執筆したほか、「全体小説と世界文学」pp.147-160、「ラカン VS. ミシマ もし、二人が出会っていたら……」 pp.347-356などを執筆)

高橋睦郎、平凡社、『在りし、在らまほしかりし三島由紀夫』、2016年、280ページ(井上隆史=編集、解説)

井上隆史、新典社、『三島由紀夫「豊饒の海」VS 野間宏「青年の環」 戦後文学と全体小説』、2015年、191ページ

有元伸子ほか(編) 翰林書房、『21世紀の三島由紀夫』、翰林書房、2015年、326ページ(井上隆史=三島由紀夫の歴史観、pp.148-157)

井上隆史、私家版、『神奈川近代文学館蔵・野間宏「青年の環」草稿原稿資料総覧』、2015年、40ページ

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井上 隆史(INOUE, Takashi)  
白百合女子大学・文学部・教授  
研究者番号：10251381

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

鈴木 貞美(SUZUKI, Sadami)  
国際日本文化研究センター・教授  
研究者番号：60179207

中島 亜紀(西岡亜紀)(NAKAJIMA(NISHIOKA), Aki)

立命館大学・文学部・准教授  
研究者番号：70456276

田尻 芳樹(TAJIRI, Yoshiki)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：20251746

久野 量一(KUNO, Ryoichi)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授  
研究者番号：70409340

松澤 和宏(MATSUZAWA, Kazuhiro)  
名古屋大学・人文学研究科・教授  
研究者番号：30219422

紅野 謙介(KONO, Kensuke)  
日本大学・文理学部・教授  
研究者番号：20195671

鈴木 智之(SUZUKI, Tomoyuki)  
法政大学・社会学部・教授  
研究者番号：80235978

花崎 育代(HANAZAKI, Ikuyo)  
立命館大学・文学部・教授  
研究者番号：00259186

久保田 裕子(KUBOTA, Yuko)  
福岡教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：30262356

原 和之(HARA, Kazuyuki)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：00293118

篠原 雅武(SHINOHARA, Masatake)  
京都大学・人文科学研究所・非常勤講師  
研究者番号：10636335

(4) 研究協力者

( )